委員会視察記録

委員会名	文化観光委員会
期　間	令和４年 11 月 11 日
参加者	委 員 長　　坪内　秀樹 副委員長　　勝俣　　昇 委　　員　　土屋　源由　　　委　　員　　宮城也寸志 委　　員　　沢田　智文　　　委　　員　　早川　育子 委　　員　　山本　隆久
視察先	1　ヴァンジ彫刻庭園美術館（長泉町） 2　「鎌倉殿の 13 人」伊豆の国大河ドラマ館（伊豆の国市） 3　韮山反射炉（伊豆の国市）

視察の概要

11 月 11 日（金）

■　ヴァンジ彫刻庭園美術館

＜概要＞

ヴァンジ彫刻庭園美術館は、イタリアの現代具象彫刻家ジュリアーノ・ヴァンジの世界で唯一の個人美術館であり、本年４月に 20 周年を迎えた。

地域の学校との連携や作品に触れられる美術館として視覚障害者への対応、イベントや結婚式の会場としての活用などの取組も行っているが、経営難により県に対し無償譲渡を含む存続に向けた支援要請をしている。

＜主な質疑応答＞

Q　静岡県とジュリアーノ・ヴァンジ氏の関わりがなければ、個人美術館としての運営は困難である。駐車場不足の問題もあり、県が譲渡を受けた場合には庭の一部を駐車場に変更するなど、これまでの使い方を継続できない可能性がある。運営方法等の変更についてどう考えるか。

A　ヴァンジは 91 歳の作家でまだ価値が定まっていないが、イタリアのマルト美術館でも個展を行うなどヨーロッパにおいては評価は高く、ロダンに匹敵すると考えている。現在も日本の彫刻家の活動も紹介しており、屋外の作品を動かすのは難しいが、館内に他の作品を置くことは可能である。

A　寄付として譲渡されることになるため、条件は付かないのが通常である。条件としてではなく、活用の形を考えて決定する。

Q　県ではクレマチスは面倒見切れないと思う。障害者対応もよいと思うが、コンセプトが変わってもよいか。

A　県との話の中では無条件である。名が変わり、他の作品が入ってもよいので、今のよさを県内外の人に伝えたい。庭を潰し駐車場にするのは、県東部の人達にとっては美術館の良さが減ってしまい、美術館を潰すと譲渡

を受ける意味がなくなると思われる。
Q　庭園の管理に要するガーデナーやシルバー人材の経費は。
A　庭園管理のみで約 4,000 万円。
Q　年度末までに県の方針が決定しないおそれがある。再オープンまでの間、庭の管理に現在の人材が生かせるか。
A　３月末まで管理し４月から県に移行することを考えているが、再オープンまでの協力を申し出ている。
Q　地域に開放し、障害者対応をしても美術館管理は難しいと感じる。課題を県に託すことになるが、どう考えるか。
A　教育、普及を目指し社会教育機関として運営してきたが、私立であるため教育との連携が難しかった。公立になることによって連携しやすくなると考え、譲渡を決心した。
Q　無条件の譲渡ではコンセプトが崩れることもあるので、意向は伝えた方がよい。地域の方にもっと使ってもらいたいが、どう考えるか。
A　知事に相談した際に、社会教育機関として使ってもらいたいと意向を伝えてある。東部にある美術館だが、いらしていない人もいて、学校との連携もまだまだだと思っている。
　財務的に、県で予算を確保してほしい。観光施設であり、庭も美術館も県域になれば周知しやすいと思う。よい循環が生まれるのではないか。

■　「鎌倉殿の 13 人」伊豆の国大河ドラマ館

＜概要＞

　令和４年１月に開始した大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の放送に合わせ、韮山時代劇場内に開館した。ドラマ館のほか、「義時の里」として義時を中心とした北条家に関する歴史を伝えるスタディーゾーン、物産館、キッチンカーやテント物販を行う日だまり広場などが設置されている。
　当初約５億円だった設置運営予算が減額され約 2.09 億円になったが、スタッフの手厚いもてなしで好評を得ている。当初の来館者数 10 万人の目標を７月に達成し、現在は 15 万人を超えている。ドラマ館以外にも他の北条家ゆかりの地へも多くの方が回遊しており、誘客の核となっている。８～９月には市内で撮影があり、オープンセットの体験会には国内外からの参加があった。北条家が屋敷を持っていた本物の場所であることが強みになっている。
　現在はドラマのフィナーレとなる催しの調整をしている。ロケで使用した備品の活用や全国の坂東武者ゆかりの地の広域マップの作成等により広域周遊のきっかけとする。来年の大河ドラマは県中西部が舞台だが、県全体を盛り上げていくと聞いているため、官民連携の力を発揮して引き続き地域振興を図っていく。

＜主な質疑応答＞

Q　レンタル自転車の活用実態は。
A　大河ドラマに合わせレンタルできる場所を 10 か所つくり、スマホ決済に対応している。歩いて回るのは大変であるため、自転車で周遊してもらって

いる。特に春、秋に活躍している。

Ｑ　コンパクトなドラマ館に対する意見は。

Ａ　大河ドラマには10万人のコアファンがいると言われている。全てのドラマ館を回っているとは思えないが、ここに10回来た人もいて、１回につき１時間以上滞在した。口コミで良さを伝えてもらえる。個人客は滞在時間が長く約40分、団体客は短く約20分、平均すると約30分滞在している。

Ｑ　当初予算５億円が付いていたらよかったという思いはあるか。

Ａ　若者向けとして「チームラボ」を呼び大ホールまで整備し、入場料800円で30万人の来場を想定していた。コロナもあり、小さくてよかったのかもしれないという思いもある。

Ｑ　学生を巻き込んだのがよかった。地域の人が大事な所だったと気付く機会になったと思うが、どんな議論を重ねたのか。

Ａ　予算が切られたため、自分たちで盛り上げるしかないと協議会がまとまり、１か月に一度は会議を開催し既存のイベントも集中させた。

■　韮山反射炉

＜概要＞

韮山反射炉は、関連建物跡地及び横を流れる韮山古川からなる大砲製造工場として、「明治日本の産業革命遺産」に登録されている。平成27年の登録直後は年間70万人の来訪者があったが、反射炉があるだけでは価値を理解してもらえなかったため翌28年にガイダンスセンターを開館し、築造に至る時代背景や保存の取組などについて映像や展示などにより発信している。また地域の学校の調べ学習の新聞や美術・図工作品の展示も行っている。現在の来客数は年間約10万人であるが、20万人、１億円の収入を目指している。

築160年経過する反射炉では、レンガの劣化が進み崩壊のおそれがあるため、明治41年、昭和32年、昭和63年、令和３年に修復を行ってきた。令和２～３年に実施した保存修理は、将来の本格的な保存修理に生かすための試験施工を実施している。保存管理は順調であるが活用が難しい。現在、建物の痕跡を探すための発掘調査を実施中であり、校倉、細工小屋の柱の跡が発見されている。全体像が分かるように整備することが課題である。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　当時日本になかった耐火れんがの原材料はどこのものか。

Ａ　天城山（現在のループ橋付近）で採れる粘土で作っていた。